

国際メタン等排出削減拠出金



【令和5年度補正予算額 200百万円】

優れたメタン等の排出削減技術等の導入により、途上国のメタンの排出削減を支援します。

1. 事業目的

- ① メタン等の排出削減技術等の海外展開を促進することで、途上国において温室効果の高いメタン等の排出削減を支援するとともに、火災、崩落、水質汚染等の都市衛生環境を改善し、地域雇用の創出に貢献する。
- ② 二国間クレジット制度（JCM）を活用したメタン等の排出削減技術等の導入を促進する個別プロジェクト支援により、JCMクレジットの獲得を行うと同時に、我が国企業が有する優れた環境インフラの海外展開を促進。

2. 事業内容

日本政府は、「地球温暖化対策計画（令和3年10月22日閣議決定）」において、JCMの目標として、2030年度までの累積で1億t CO2程度の国際的な排出削減・吸収量の確保を掲げている。「COP26後の6条実施方針」（令和3年11月環境省発表）では、国際機関と連携した案件形成・実施を進めることとしている。

メタンを始めとするCO2以外の温室効果ガス（HFC、N2O等）は高い温暖化係数を有するが、発生源が小規模分散型の傾向があり、技術導入に向けた資金支援が不可欠である。

「グローバル・メタン・プレッジ（GMP）」では、世界全体のメタン排出量を2030年までに2020年比30%削減する目標が掲げられ、賛同国の一員である日本としても、その貢献が求められている。今年4月に米、日を中心に立ち上げられた「メタン・ファイナンス・スプリント」では、COP28までに政府及び慈善団体から2億米ドル以上の資金を動員することを目指している。2023年4月のG7気候・エネルギー・環境大臣会合コミュニケでは、途上国におけるメタン等の非CO2気候汚染物質の排出削減への支援強化に努めることが確認されている。

我が国発の技術である準好気性の埋立処分技術（福岡方式）は、地域の実情に応じて低コストで処分場からのメタン排出抑制を図ることが可能。

以上を踏まえて、ADB、UNIDOを通じて、メタン等の排出削減プロジェクトへの資金支援を実施し、その貢献に応じたJCMクレジットの早期獲得を目指す。

3. 事業スキーム

- 事業形態 拠出金
- 拠出先 アジア開発銀行信託基金、UNIDO
- 実施期間 令和5年度

4. 具体的なイメージ

拠出金を通じて、各国際機関からの情報を取りつつ、具体的な事業につなげていく。



モザンビークの最終処分場での大雨による崩落事故



ヤンゴンのごみ捨て場火災事故

出典：The Guardian <https://www.theguardian.com/global-development/2018/feb/26/explosion-fatal-rubbish-landslide-mozambique-hulene-dump>

出典：VACヤンゴン会計事務所 <https://vac-mm.com/column/623/>



<具体的事例>
準好気性埋立構造（福岡方式）によるメタン排出削減

